

富士市立高等学校 学校運営協議会		第19回	会議要旨 (令和元年度)
開催日 令和元年6月10日 月曜日 開会 18時30分 閉会 20時30分	会議場 富士市立高等学校 2階 PIRルーム		
出席委員 【委員】 一条 聖恵 長田 結衣 塩田 真吾 志田 好久 畑 隆 畑 裕美 村田 猛 村山亜希子 矢崎 進 山田 雅彦 渡邊 寛子 岩田 享 池田 将章 【オブザーバー】 宇佐美壽英 桑原 克之 齊藤 隆裕			
開会			
委嘱状・辞令書交付及び新任委員自己紹介			
○教育長あいさつ ・13名の委員の方には、これから富士市立高等学校学校運営協議会委員としてよろしくお願ひしたい。 ・富士市立高等学校の生徒は、ブラスバンド、チアリーダーをはじめ、各所で活躍し、スポーツにおいても、文化活動においても、様々な場面で活躍してくれていて、富士市としても誇りに思っている。 ・先日の富士市立高等学校の文化祭である南稜祭では、それぞれの部活動、各クラスの出し物を見学し、生徒が生き生きと自分らしさを発揮している姿を見ることができた。生徒たちもみんな頑張っているが、それ以上に先生方も生徒を大切にして、その良さを引き出してくれているなど感じた。 ・高等学校の場合は、現在の学習指導要領が3年後に改訂され、完全実施をしていくことになる。その理念は、「主体的・対話的で、深い学び」というコンセプトでやっていくと言われている。その「主体的で、対話的で、深い学び」ということの根底には、探究的な精神を養い、主体的に学びに向かい、探究的な精神で物事の解決に向かって、仲間とともに力を出し合い、お互いに納得の行くような答えを出していくということである。 ・富士市立高校は、吉原商業高校から改編されて以来、探究学習を学びの中心に据え、新学習指導要領が求める姿を先取りしている。 ・富士市立高校は、今年9年目を迎え、来年度は新高校として開校以来10年目を迎			

える。10年目を迎えるところで、これまでの歩みを振り返りながら、新しい、更に飛躍する市立高校を目指して検証を行うことも必要である。そのためには、委員の皆様力を借りながら、今後進んでいく道標を付けたいと考えている。

副会長の指名

- ・会長から副会長を指名

○会長あいさつ

- ・来年は、富士市立高校が10年目を迎えるということで、ちょうど学校運営協議会委員の任期の最中に節目の年を迎えるということを知った。昨年度も会長を務めたが、この節目の時にまた会長を務めるということで、身が引き締まる思いである。
- ・委員の協力を得ながら、会を進行していきたいと思うので、是非協力の程お願いしたい。

議事の概要

○学校からの報告

◇学校紹介

- ・本校の校訓は、「考えよ」という言葉で、吉原市立吉原商業高等学校の初代校長、土屋昌久校長がこれからの時代に、生徒の一番必要なことは考えることであるということで、この校訓となった。学校が富士市立高校に改編された際も、探究学習に校訓「考えよ」が繋がっていくということで、この校訓は継続された。
- ・本校の教育目標は「未見の我を探そう」という言葉で、各教室にも掲げられている。本校に入学して、是非未見の我を探してもらおうということで、この言葉を教育目標としている。
- ・本校の教育方針は、コミュニティハイスクール、ドリカムハイスクール、探究ハイスクールの3点である。
- ・本校各学科の定員は、総合探究科が3クラス120人、ビジネス探究科が2クラス80人、スポーツ探究科が1クラス40人である。
- ・本校の教育の特徴は、探究学習で、「調べる」、「考える」、「まとめる」、「発表する」、「振り返る」の5つの要素をスパイラルに行っていて、この一連の流れが本校における探究学習の肝要な部分である。
- ・1年生の探究学習の前期の発表会が7月17日（水）に、1・2年生の後期発表は令和2年2月13日に予定されているので、委員の皆様には是非本校にお越しになり、その様子を御覧いただきたい。

◇各学科（総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科）紹介

ア 総合探究科

- ・総合探究科は普通科的な学科で、4年制大学を目指す学科で、2年次に文系・理系に分かれて授業のカリキュラムを組んでいる。
- ・特徴的な点は、特に2年生、3年生では普通教科の中に探究のカリキュラムを組み込んでいることである。

- ・総合探究科の進路状況は、約9割が進学で、そのうち5割が4年制の大学に、それ以外が短期大学、専門学校という進路である。

イ ビジネス探究科

- ・ビジネス探究科は、2クラスで、商業科目を中心に学習をしている。
- ・ビジネス探究科の学習面では、検定資格の1級を取得するということを目指している。昨年度の卒業生は、1級を3種目以上取得した生徒が21人おり、県内の商業科のある高校の中で、上位5校に入った。
- ・昨年度様々な産業フェア等のイベントが市内で開催され、そうしたイベントに参加し、ビジネス探究科の情報発信を行った。
- ・ビジネス探究科の進路状況は、進学にも、就職にも対応できるという形で、国立大学から市内の企業に至るまで、生徒は幅広く進路決定をしている。

ウ スポーツ探究科

- ・スポーツ探究科の3年間のカリキュラムは、一般の高校で「体育」となっている授業がスポーツIからスポーツVIまでの実技、保健の授業も含めて、スポーツ概論、スポーツ総合演習などがある。これらの授業の中で自分で決めたテーマを研究したり、発表したりというような取組を行っている。
- ・スポーツ探究科の進路状況は、5割から6割ぐらいが4年制大学に進学し、残りの半分が短期大学及び専門学校への進学、その残りが就職という実績になっている。

◇探究学習について

- ・本校は、開校以来学校教育全般で探究学習に取り組んでいる。探究学習の中では「究タイム」が軸となっており、1年生から3年生までの「序」、「論」、「活」、「究」、「夢」の5単元、5つの学習活動で構成されている。特に2年次に行っている「市役所プラン」は、地域の方と関わる活動として、生徒にとって大きな活動となっている。
- ・教科探究の「社会探究β」という授業では、東海財務局と連携して、共同のプログラム、未来の国家予算の編成に取り組むという授業を行ってきている。また、模擬議会なども行って、大変魅力的な授業になっている。
- ・商業科で行っている「商品開発」という授業では、地元の農家、事業主の方から課題を受けて、商品開発を通じて課題解決に取り組んでいる。
- ・平成30年度卒業生に実施した総合的な学習の時間のアンケートでは、全般的によい結果になっているが、思考判断に関連した回答が例年よりも高い傾向にある。また、「人の役に立ちたい」と考える生徒が大変多いのも本校の特徴である。

◇平成30年度の卒業生の進路状況について

- ・平成30年度の卒業生の進路は、4年制大学への進学が90人、短期大学への進学は21人、専門学校への進学が76人、就職が40人となった。この割合は、例年とほぼ同じような割合であり、概ね4年制大学進学が4割程度、専門学校が

<p>4割程度、就職が2割ぐらいというところで推移をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の国公立大学の受験は、一般入試で、前期入試では静岡大学工学部、福島大学理工学部、後期入試では、北見工業大学に合格した。最近一般入試で合格した生徒はいなかったが、昨年度は3人合格した。2月に学校に登校して3年部の先生の補講を受講するなど、粘り強く努力した成果が現れた。 専門学校には、22人が合格した。とりわけ、看護専門学校への進学也希望も多い。 昨年度就職状況は、求人が好調で、一昨年県内の求人137人に対し、昨年度は258人と求人が増加した。ほとんどが地元県内の富士市周辺の企業に就職している。公務員も4人合格した。 今年の3年生については、現在54人が就職を希望している。特に男子生徒の希望が多い。 <p>◇部活動の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、全国大会に陸上部とチアリーダー一部が出場した。東海大会も同様に陸上部及びチアリーダー部の出場である。 令和元年度は、陸上部、弓道部、チアリーダー一部で東海大会出場が決定した。 サッカー部は、昨年度に東海プリンスリーグ参入戦を勝ち上がり、今年度は東海プリンスリーグで試合をしている。試合は12月まで続く。 本校も昨年度に部活動ガイドラインを策定し、今年の4月からホームページに掲載し、併せて運用も開始している。各部で毎月の活動計画を立て、学習とのバランスを取りながら活動を進めている。 	
<p>学校からの報告について意見交換</p>	
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度強化された学力向上対策委員会、及び新設された高大接続改革対応委員会について、今後の方針等を含めて取組み等について教えてほしい。
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上対策委員会は、模擬試験等の結果を分析し、各学年、各教科を通して、生徒に対する進路指導をよりきめ細かくフォローしていくこと及び授業改善を通じて全般的な学力の向上を図っていく。 高大接続改革対応委員会は、次年度からこれまでのセンター試験に代わって実施される大学入学共通テストへの対応、及び大学入試で多面的、総合的な能力を評価するとされているので、本校での活動を記録した「classi」の情報をいかにジャパン・eポートフォリオにまとめ直して、それを大学側に提出するかという点について検討していきたい。

○令和元年度学校経営計画について説明と承認

◇令和元年度学校経営計画について説明

- ・生徒の基礎学力向上のため、昨年度までの学力向上検討委員会を強化し、学力向上対策委員会を創設した。
- ・労働関係法の改正による働き方改革への取組の1つとして、教員の多忙化解消及び部活動の適正な運用を図るため、部活動ガイドラインを策定し、平成31年4月から施行した。
- ・令和2年度に富士市立高校開校10年目を迎えるに当たり、これまでの本校の歩みを見つめ直し、富士市立高等学校改革実施計画の検証を行っていく。
- ・高大連携の強化を図るため、高大接続改革対応委員会を新設した。
- ・生徒の家庭、PTA、中学校、地域といった関係団体・機関等に係る内容についても目標を定め、事務室についてもコピー代、電気代等の目標を定めた。

令和元年度学校経営計画について意見交換

(質問・意見等)	・今の中学生は、私立の受験などについても、その選択の仕方は、学校の魅力ということもあるが、通学距離というの大きなウエイトを占めていて、スクールバスが出るから、楽なのでその学校を希望するということもある。富士市立高校が立地する吉永地区等は、人口、子ども数、ともに減少傾向にあるが、条件さえ整えば、遠距離からでも富士市立高校を志望する可能性はある。
(質問・意見等)	・高校では、どこの大学に何人入学したということで競争をしているが、中学生は意外と高校に入学した後、3年間どれくらい自分自身が楽しい高校生活を送れるか、という条件も意外とウエイトが高い。その学校の特色で選んでいることもあるため、大学に何人合格したという数だけではなくて、学校の教育内容、魅力を伝えることも効果的である。
(質問・意見等)	・「保護者、地域から信頼される学校」とあるが、保護者に対してはアンケートを行ってその結果を見れば分かるかもしれないが、地域から信頼されているか、されていないかというのは、どのように判断するのか？
(回答)	・各中学校の校長、教頭との話合い、町内会長等のまちづくり協議会の役員の方との授業の進め方などについて話合いの中で、総合的に信頼具合を判断していくことになると思う。
(質問・意見等)	・地区の役員などが富士市立高校の授業見学等で、教室等の発表を参観した後、来校した地域の方にアンケートを取った方が効果的だと思う。
(質問・意見等)	・高校入試において、年によって人気が高い年があったり、低調な年もあったりというのはなぜか？その年のその子どもたちによる変化なのかも知れないが、何かそうした現象に理由があるのか、またこうした

<p>(回答)</p>	<p>ことについて学校で何か調査をしているのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校に限らず、多くの高校で、隔年で競争率が上下する現象が生じている。ある年度に志願者が増え競争率が上がると、多くの不合格者を出し、例年よりも合格ラインが上がってしまう。その結果翌年度には、受験生は、その上がったボーダーラインを基準に志願校を選択するので、上がったボーダーラインぎりぎりの受験生は、合格が難しいと判断した場合は、他の高校を受験するようになり、結果的に受験者数が減って競争率が下がることになる。 <p>反対に前年度競争率が低く、合格者のボーダーラインが下がると、翌年度は、これまでその高校の受験を諦めていたレベルの生徒が、下がったボーダーラインを見てその高校にチャレンジしやすくなるので、逆に翌年度は受験者数が増え、競争率が上がることになる。</p>
<p>(質問・意見等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの高校でスクールバスを運用しているが、部活動をやっていると利用しにくいという声を聞く。富士市立高校は部活動に力を入れている学校だが、そうした面での対応はどのようにしているか？
<p>(回答)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの便については、授業が終わって帰る生徒と部活動をやってから帰る生徒のことを考え、朝学校に来る便は1便しかないが、帰りは2便になっていて、部活動のない生徒は午後5時30分発、部活動をやってから帰宅する生徒には7時30分と2便で対応している。部活動は、基本的に午後7時に終了することになっているので、部活動が終了し、着替えをしてスクールバスを利用できるような時間設定としている。
<p>(承認)</p>	<p>→ 令和元年度富士市立高等学校学校経営計画書</p>
<p>次回日程について</p>	
<p>閉会</p>	